

## 表紙の説明

冬至のダイヤモンド富士

池上 均 (陸自73)

私の毎日のウォーキングコースは利根川と江戸川をつなぐ利根運河沿いであり、その河川の合流点から吉川市と野田市を結ぶ玉葉橋までの区間が富士山の絶好の観測地点である。

河畔から富士山までは約130km。大気の澄んだ冬場や降雨の翌日の晴れた日は富士山がよく見える。

特に12月末の冬至の頃は富士山頂に太陽が落ちるいわゆる「ダイヤモンド富士」となる絶妙の日を迎える。おりしもこの月の『偕行』も平成最後の12月号であり、表紙を飾る暮れゆく富士山を提供した。

今上陛下はこの平成を「大災害の多い時代」とのお言葉で総括された。思い返せば平成は、雲仙普賢岳噴火を始めとして、阪神淡路大震災と、地下鉄サリン事件、東日本大震災、御岳山噴火、熊本地震、そして今年の北海道地震に至るまで、確かに災害が続いた記憶が蘇る。

反面、平成は戦争の全くない年号であった。

明治維新の大改革から日清戦争、日露戦争、日華事変と続き、最後の大東亞戦争に至るまで、明治、昭和は大戦争を経験した元号であった。

新たな元号が、新しい年の5月から始まる。

暮れゆく富士山を眺めながら夢と希望に燃え、そして大きく前進する「世界に輝く日本国」を築きたいと願っている。